

# カバエ科 Anisopodidae

ver. 2019/01/27



「日本昆虫目録第8巻」(2014)によると、日本産カバエ科は2属6種とかなり小さなグループです。最近の報告[1]を見ても日本産の想定種数はわずか1種増えて7種だとのことです(「一寸のハエにも五分の大和魂・改」という掲示板のNo. 2977のスレッドでは9種と書かれています)。このうち5種については「新訂原色昆虫大図鑑III」(2008)で再記載されています。

MND Vol. 1 (1981)[2]によると、幼虫は腐敗物を栄養源としていて、湿ったり、濡れて腐敗したり、発酵している有機物を栄養源としているようです。例えば、肥やしとか腐ったジャガイモ、腐敗した葉とか根、ミツバチの巣、カビたり腐敗した紙、下水汚物の濾床、木からの滲出物などです。蛹は繭を作らず、羽化直前になると盛んに動き回ります。成虫の♀は湿った場所ならどこにでも産卵します。♂は大小の群れを作り、♀を呼ぶために様々な種類の空中ダンスを踊るとのことです。成虫は幼虫の生息地近くで見いだされますが、花の蜜や他の液体も吸っているようです。「大図鑑」によると、カバエはキノコ類、獣糞、樹液などから発生し、叢間を掬って採集されるとのことです。そのほか、樹幹にしばしば静止し、灯火にもよく飛来するそうです。

マンションではそれほど多くは見えていません。これまでに見たのは2月下旬と3月上旬に1度ずつでした。

[1]中村剛之、「『日本昆虫目録 第8巻 双翅目』の出版と日本産双翅目相の解明度について」、昆虫(ニューシリーズ) 19, 22 (2016).

[2] Manual of Nearctic Diptera Vol. 1 (1981). ([ここからダウンロードできます](#))

## カバエ科の分類と特徴

「絵解きで調べる昆虫」(文教出版、2013)の中の笹川満廣氏の「双翅目昆虫の絵解き検索による分類」によると、カバエの科の検索は次のような手順で進みます。

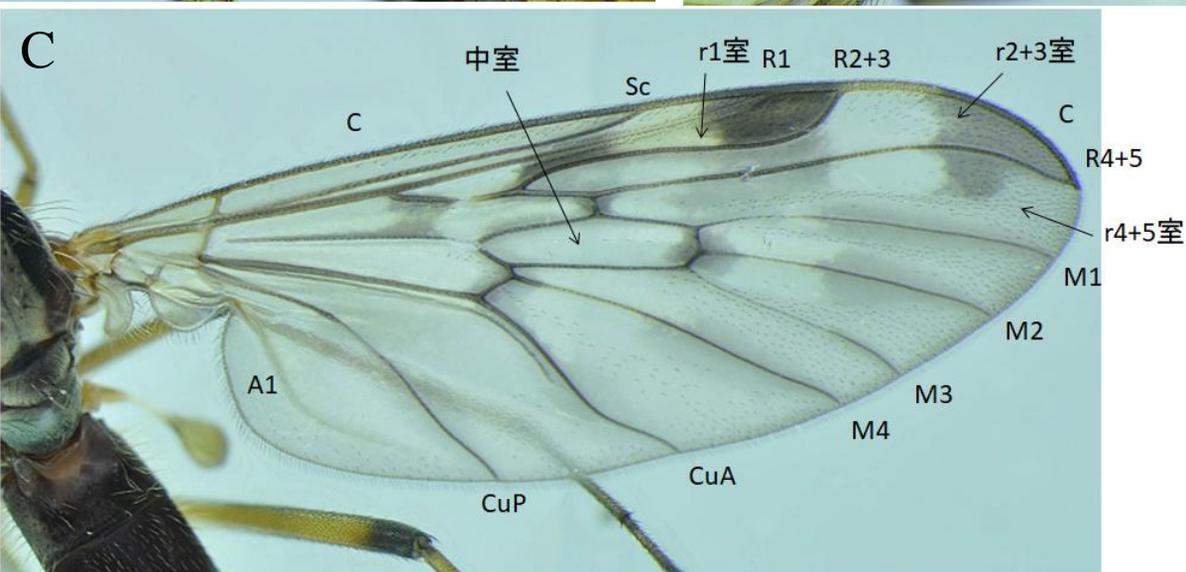
- ①長角亜目
- ②ガガンボ類以外(胸背にV字型のしわがない)
- ③翅に二次脈はない
- ④C脈は翅を全周しないで途中で止まる
- ⑤中室がある
- ⑥R2+3脈とR4+5脈を結ぶ横脈はない

下は*Sylvicola (Sylvicola)* sp. 2の頭部(A)、胸部(B)、翅脈(C)の写真です。なお、翅脈の名称は「新訂原色昆虫大図鑑III」の方式になるようにしました。

カバエ科の主要な属である*Sylvicola*属の種への検索表は次の論文[3,4]と「新訂原色日本昆虫大図鑑III」、および、「一寸のハエにも五分の大和魂・改」のNo. 2977スレッドに載っています。

[3] I. Okada, "Ueber die Gattung Phryne Meigen (Phryneidae) (Neue und wenig bekannte Dipteren aus Japan. II)", *Insecta Matsumurana* 9, 166 (1935). (ここからダウンロードできます)

[4] N. P. Krivosheina and F. Menzel, "The Palaearctic species of the genus *Sylvicola* Harris, 1776 (Diptera, Anisopodidae)", *Beitr. Ent.* 48, 1 (1998). (ここからダウンロードできます)



*Sylvicola (Sylvicola) sp. 2*

2015/02/27

写真のハエはマンションの天井に止まっていた。それで捕虫網を持ってきて採集しました。「絵解きで調べる昆虫」の検索表で調べてみると、カバエ科のようです。さらに、MND[2]に載っている属の検索表で調べると、*Sylvicola*属になりました。「一寸のハエにも五分の大和魂・改」という掲示板には *Sylvicola*属の種の検索が載っています。実際に検索をしてみると、一か所疑問点があったのですが、最終的にマダラカバエ *Sylvicola japonicus* (Matsumura, 1915) になりました。疑問点というのは、「後腿節が一様に黄褐色」というところです。写真を見ても、腿節の末端は黒くなっているのです、一様にということにひっかかってしまったのです。

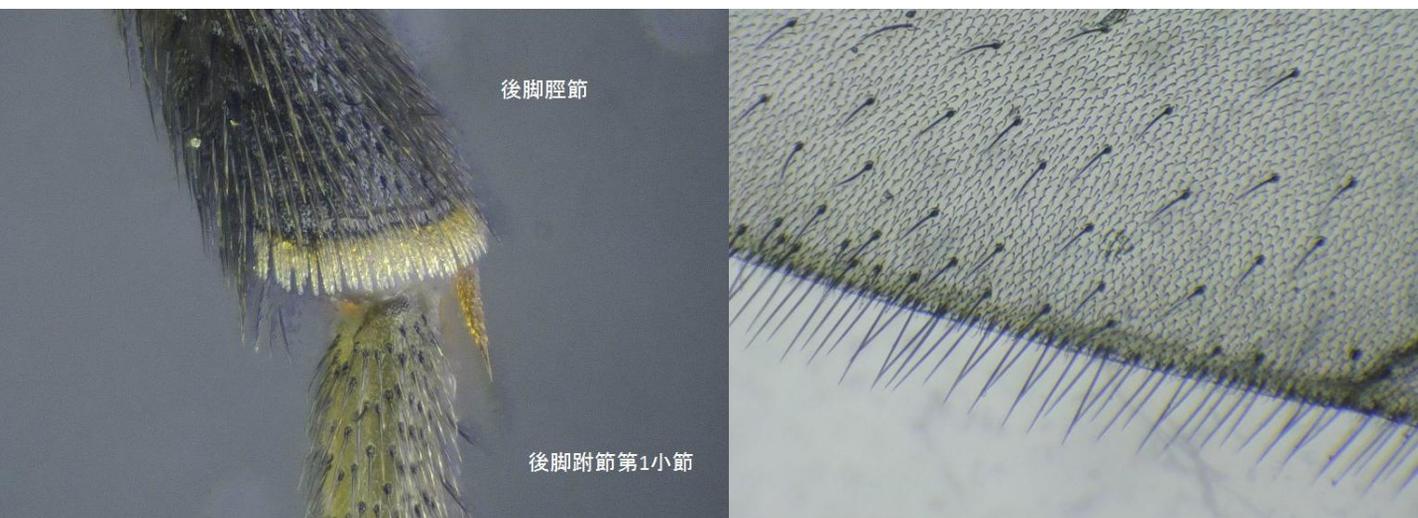


2015/03/08

このことをブログに出したら、「マダラカバエの後腿節も先端部分は黒くなる様ですね。」というコメントをいただきました。「後腿節は先端部を除き一様に黄褐色」ということであれば、理解しやすくなるのですが・・・(「新訂原色昆虫大図鑑III」の検索表にはそのようになっていました)。なお、検索の詳細はブログと別冊に載せてあります。また、写真上は♂の個体、右下は♀と思われる個体です。

実は、ここからが少しややこしくなります。先ほどの「一寸のハエにも五分の大和魂・改」の2010年2月18日付けの記事を読むと、*Sylvicola japonicus*の原記載である松村松年氏の本(1915)[5]の内容では中胸盾板に3本の縦線と書かれています。その後、1935年の岡本氏の論文[3]でも同様ですが、なぜか交尾器の図は現在見る種とは異なっていたそうです。北大にはsyntypeとして残っている模式標本があるのですが、この交尾器を持つ種はsyntype標本と合っていて、なおかつ、胸背は4本の縦線になっていたのです。従って、ここではこの4本線の種を*Sylvicola japonicus*とするのが妥当だとして、「一寸のハエにも五分の大和魂・改」の検索表に出ていた*Sylvicola* sp.2が新たに*Sylvicola japonicus*になりました。この種は主に北海道などの北方に分布する種です。これに対して、全国的に普通にいる種は3本線でしたが、突然名前がなくなってしまいました。同時にマダラカバエという和名も*Sylvicola japonicus*にくっついていったので、普通種に和名もなくなってしまいました。この辺りの事情は「大図鑑」のマダラカバエの解説にも書かれています。従って、ここでは仮に*Sylvicola* sp.2としています。

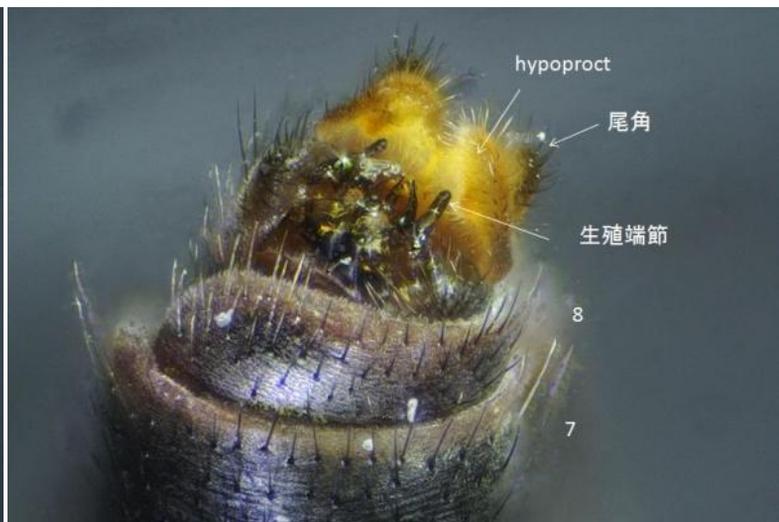
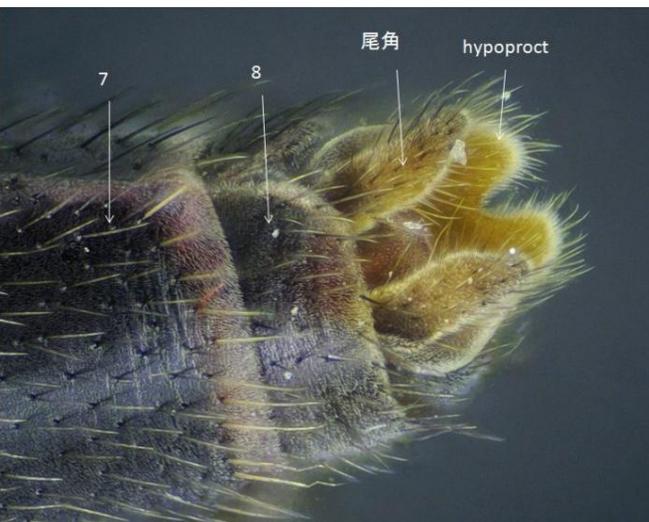
[5] 松村松年、昆虫分類学下巻 (1915). ([ここからダウンロードできます](#))



カバエ科の属の検索表は「新訂原色昆虫大図鑑III」に出ています。また、種の検索については先ほどの「一寸のハエにも五分の大和魂・改」の検索表を用いると以下のような手順でsp.2(以前の*japonicus*)に到達します。

- ①翅膜にはマクロトリキアを生じる;触角は頭部+胸部長より短い;後脛節端の後面に小刺毛が密生した櫛歯状構造を持つ  
カバエ属 *Sylvicola*
- ②翅の中央室端から派生する箇所、M2脈の基部はM1脈とM3脈の基部のほぼ中間に位置する;翅端部には暗色部があるが、まれにこれがほとんど消失することもある
- ③後腿節は一様に黄褐色(「大図鑑」によると、「後腿節は先端を除いて明色」)
- ④中胸楯板には明瞭な縦の暗条がある
- ⑤中胸楯板には幅広い3本の暗色帯があり、中央の暗色帯には、その幅の1/2より狭い極めて細い淡色帯が中央を縦走することもある
- ⑥r2+3室端の翅端暗紋の内縁は判然とした境界となり、これと縁紋下の暗紋との間は明瞭な透明紋を形成する;r2+3室端の暗紋はR4+5脈を越えてr4+5室の前半部に拡大する *japonicus*→sp.2

ここまでの検索は「カバエ科の分類と特徴」、前頁と本頁に載せた写真で確認できると思います。なお、左の写真は後脚脛節末端の櫛歯状の構造、右は翅の後縁付近の拡大です。



♂の腹部末端の写真も載せておきます。左が背面から、右が腹面から写した写真です。この構造は岡田氏[3]が*japonicus*だとしているものとは大きく違ってきます。